

**京都大学教育研究振興財団助成事業
成 果 報 告 書**

平成 23 年 4 月 22 日

財団法人京都大学教育研究振興財団
会 長 辻 井 昭 雄 様

京 都 大 学 総 長

松 本 紘

事 業 区 分	平成22年度・大学全体計画事業助成			
事 業 名	京都大学未来フォーラムの開催			
成 果 の 概 要	「成果の概要」以外に添付する資料 無 有()			
会 計 報 告	事業に要した経費総額	2,291,800円		
	うち当財団からの助成額	1,700,000円		
	その他の資金の出所	(機関や資金の名称)	京都大学 大学運営費	
	経費の内訳と助成金の使途について			
	費 目	金 額 (円)	財団助成充当額 (円)	
	国内旅費	144,000	144,000	
	印刷製本費	661,500	661,500	
	通信運搬費	375,214	375,214	
	謝金	449,880	449,880	
	施設使用料	591,800	0	
消耗品等	69,406	69,406		
合 計	2,291,800	1,700,000		

成 果 の 概 要

京都大学総長 松本 紘

【京都大学未来フォーラムの実施状況について】

（総評）

「京都大学未来フォーラム」は、「京都大学教育研究振興財団」の後援を得て、京都大学の第2期「中期目標・中期計画」の柱に掲げられている教育計画の実現に資する事業として開催しているものである。

実施にあたり、国際的視野、社会・経済の変化に対応しうる幅広い視野で活躍されている方々を講師に招き、講演と意見交換の場を提供することにより、本学学生に対する学習・研究意欲を涵養する事業の一つとし、企業や官庁、国際機関、NGO、大学・研究機関、マスメディア、文化・芸術など様々な分野で活躍する方々を通して得られる社会からの情報還元により、学生自身が社会・経済及び文化に対応し得る幅広い視野と総合的な判断力を養い、社会の中で幅広く物事に対処できる自己の確立、また、学生自身の学習・研究への意識や意欲の向上を図ることにより、自学自習の中での自己研鑽及び意識改革へとつなげることを効果として期待している。

平成22年度は、物理学者の坂東昌子氏、(財)日本国際交流センターシニア・フェローで元外務審議官の田中 均氏、シャープ株式会社代表取締役会長の町田勝彦氏、NHKチーフ・アナウンサーの野村正育氏及び国際日本文化研究センター教授の井上章一氏と様々な分野から講師を迎え5回のフォーラムを開催した。各講演終了後には質疑応答の時間を設けており、活発な質問が行われた。

フォーラムには、5回で延べ2,176名の参加者があり、1回当たりの開催について435名の参加者があった。参加者の意見聴取については、毎回フォーラム終了後にアンケートを実施し、今後どのような分野の講師を希望するか等の意見を参考にしている。

なお、東京オフィスでの同時中継を行い延べ192名の参加があった。

（今後の計画）

京都大学未来フォーラムは、平成23年度についても継続して実施するため、今後とも貴財団からの助成をお願いしたい。